

英 語

日程	大問	出題分野・英文テーマ・形式	設問数	難易度
2 月 3 日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「学校でのスマートフォン利用への見解」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「ペット向け培養肉の是非」	4	やや易
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句 7 か所、解答 2 か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（論説文）。 英文テーマ「中国へのパンダ返還」	15	標準
2 月 7 日	I	長文読解問題（エッセイ）。 英文テーマ「電車での放浪生活」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「インドにおける多言語教育」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句 7 か所、解答 2 か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（説明文）。 英文テーマ「日本語・アラビア語翻訳者の Rana Seif」	15	標準
2 月 8 日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「音を介した植物のコミュニケーション」	4	やや易
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「おにぎりについて」	4	やや易
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句 7 か所、解答 2 か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（説明文）。 英文テーマ「怒りへの対処法」	15	標準
2 月 9 日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「ヒゲペンギンの睡眠」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「行動活性化による気分の改善」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句 7 か所、解答 2 か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（説明文）。 英文テーマ「バレンタイン・デーの由来」	15	標準
3 月 4 日	I	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「EpiPen に関する小学生による発見」	4	標準
	II	長文読解問題（説明文）。 英文テーマ「ニワトリを無償提供する目的」	4	標準
	III	文法・語法・熟語問題。短文の空所に適切な語句を補充する。	12	標準
	IV	整序英作文問題。和文あり。指定語句 7 か所、解答 2 か所。	6	標準
	V	語彙問題。英語で書かれた定義に合う語句を選択する。	5	標準
	VI	長文中の空所補充問題（説明文）。 英文テーマ「協働的学びと競争的学び」	15	標準

＜出題傾向＞

いずれの日程も試験時間は 60 分、すべてマーク式の客観問題である。大問数は 6、小問数（マーク数）は 52 で、設問形式は各日程共通となっている。難易度については、「やや難」以上の出題は見られず、「標準」レベルに集中している。問題構成、難易度ともに、昨年度までの出題に倣う形となっている。

問題のタイプで分類すると、①「長文読解問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ」、②「知識系問題Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」に大別される。

①「長文読解問題Ⅰ・Ⅱ・Ⅵ」については、出典の語数は 500 語程度であり、それぞれの語数に大幅な違いはない。今年度は 1 題のエッセイを除きすべて説明文に基づく出題である。エッセイを出典とすることは従来もまれにあったが、ほとんどが説明文を出典としていて、その点は昨年度までの傾向を踏襲している。今年度はすべてインターネット上の記事からの出題であった。毎年、特定のインターネットサイトが典拠となりやすい顕著な傾向があり、たとえば *Time for Kids* (<https://www.timeforkids.com/>)、*News for Kids* (<https://newsforkids.net/>)、*VOA News* (<https://learningenglish.voanews.com/>)、*NPR* (<https://npr.org>) などから採用されることが多かった。今年度も同様の傾向が見られ、*Time for Kids* や *News for Kids* など英語圏の小・中学生向けに書かれた記事が採用されている（2 月 3 日問題Ⅰ、2 月 8 日問題Ⅰ、3 月 4 日問題Ⅰ）。また、今年度は *The Japan News* や *Nippon.com* など、日本から発信されている英文記事が採用されている点が目を引いた。

出典テーマについては、インターネット上の記事を出典としていることから、最新の時事的テーマを扱う傾向が顕著である。小・中学生向けとされるサイトの記事とはいっても、そのテーマは現代社会をめぐる時事的な問題を扱ったものが多い。たとえば、情報通信技術に関わる問題（2 月 3 日問題Ⅰ）、資源・環境問題（2 月 3 日問題Ⅱ、3 月 4 日問題Ⅱ）がそれにあたる。また、最新の科学研究に基づいた論考（2 月 8 日問題Ⅰ、2 月 9 日問題Ⅰ）などが出典となる傾向も、インターネット記事が出典であるがゆえの特徴と言える。ほかにも、自己啓発的内容の出典（2 月 7 日問題Ⅰ、2 月 8 日問題Ⅵ、2 月 9 日問題Ⅱ）やコミュニケーションに関わる問題（2 月 7 日問題Ⅱ、2 月 7 日問題Ⅵ）など、若い受験生に向けて示唆に富む出典が多いことも特徴として指摘できる。

設問については、問題Ⅰ・Ⅱはいずれも設問数が 4 であり、本文の内容をバランスよく問うている。質問に対して本文の内容に合った答えを選ぶ問題と、本文の内容に照らして正しい英文を完成させる問題が中心だが、どちらも「内容一致問題」と考えてよい。そのほかに、適切なタイトルを選ぶ問題が出題されることもあるが、総じて本文の趣旨や論理展開への理解を問う出題となっている。下線部の表現理解を問う設問もあるが（2 月 3 日問題Ⅱ(4)、2 月 7 日問題Ⅰ(1)、3 月 4 日問題Ⅱ(1))、これも知識力を問うというよりは文脈の中での意味を問うているため、やはり読解力を試す設問と考えてよいだろう。

問題Ⅵは、本文中の空所を補充する出題である。本文の論理展開への理解を問う出題と、基礎的な語彙知識の有無を測る出題に大別することができる。後者の「語彙知識」を問う出題について、空所の語句は特定の品詞に偏ることなく出題されている。

②「知識系問題Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」では、文法・語法・熟語・構文・語彙の知識が問われている。難易度の高い出題を避けつつ、特定分野に偏ることのない出題を心がけている姿勢がしっかり見て取

れる。

問題Ⅲの文法・語法・熟語問題は、与えられた短文の空所に入れるのに適切な語句を選ぶ出題であり、文法・語法が中心となっているが、熟語の出題も若干見られる。問われている事項のレベルは基礎的なものにとどまっている。

問題Ⅳの整序英作文問題は、与えられた和文に相当する英文について、空所 7 か所に選択肢群から適切な語句を選び入れて英文を完成させる問題であるが、これは整序英作文では最も典型的な出題パターンである。英文は 15 語前後で、和文と英文がかけ離れていて頭を悩ませるような問題はほとんど見受けられず、重要構文の知識をオーソドックスに問う出題となっている。

問題Ⅴの語彙問題は、与えられた英語による定義に対応する語句を選択する問題である。名詞・動詞・形容詞・副詞の語義が満遍なく問われており、品詞の偏りは見られない。出題されている語彙については、英検 2 級相当の語句が中心で、問題Ⅵで問われる語彙のレベルと特段違いはないものと考えてよいだろう。

<学習対策>

1) 文法・語法 —— 基礎的知識を網羅的にカバーしよう！

文法・語法の知識は、問題Ⅲで問われるだけでなく、正確な読解の基盤ともなるため、その習得は英語問題対策としては不可欠である。問題Ⅲで問われる文法・語法の知識は、高等学校で学習する基礎的事項がその大半である。また、いたずらに問題を難しくするような仕掛けも施されてはいない。したがって、普段利用する学習用英文法書の例文と解説を十分に理解しておけば、完答が可能であろう。「〇〇総合英語」といった英文法書の例文理解を徹底し、加えて標準的な問題演習で知識の定着を繰り返し行えば、対策としては十分であろう。高等学校で持たされる文法問題集（上述の総合英語の準拠問題集、もしくは文法の全範囲を扱った総合問題集）があれば、それを繰り返し演習することで対策としては事足りるはずである。

具体的な文法単位について見ると、述語動詞が空所となる設問が多く、この場合は時制、助動詞、仮定法についての理解が問われることが大半である。

次に、準動詞に関わるものが多い。「動詞に続く目的語は不定詞か？動名詞か？」といった基本的知識に加え、分詞構文の用い方、不定詞や動名詞を用いた慣用表現などの出題率が高い。これらの単元は優先的に学習し、確実に得点できるようにしておきたい。

ほかに、複文構造を作る接続詞や関係詞も出題されることが多い。これは問題Ⅲと問題Ⅳに限らず、問題Ⅵで問われることもある。受験生の理解がおろそかになりやすい単元であるため、理解を深めておくことが望ましい。接続詞の意味、関係詞節の成す形などをしっかり整理しておくとういだろう。

2) 語彙・熟語・構文 —— 量よりも質を優先する対策を！

語彙の知識は、語彙問題だけでなく、すべての問題に通じるものであり、文法・語法の知識と並行して定着を図る必要がある。問題ⅤとⅥで問われる語彙のレベルには特段違いがないことに加えて、長文問題では難易度の高い語彙についてはしっかりと語注が施されていることから、いずれかの問題のためにむやみに高難度の語彙を増やす必要はない。英検であれ

ば 2 級、もしくは共通テストで求められる水準の語彙の定着を図ることで、語彙対策は十分と言える。難解な語彙の理解を求めることが少ないことから、語彙の量をむやみに増やすよりは、基礎的な語彙の定着度を上げる工夫が必要となる。

語彙のほかに、問題Ⅲで熟語の知識が、問題Ⅳで構文の知識が問われている。熟語については、句動詞や群前置詞、形容詞を含むものなど、多岐にわたって出題されている。基礎的な熟語が中心であるため、語彙と同様に、むやみに量を増やすよりは、文脈と共に熟語を確認するといった、定着の質にこだわる勉強が望ましい。句動詞であれば、基本動詞と前置詞・副詞の意味を理解することで、句動詞が成立する仕組みを解明することができる。こういった理解をふまえたアプローチが熟語学習では有効である。

構文も、整序英作文では繰り返し出題される典型的な事項が中心となっている。このことから、文法・語法・熟語・構文の基礎的事項を網羅した英語総合問題集を一冊使って、上記の事項を一通り確認しておくことが有効である。そして、熟語と同様に、構文も成立の仕組みを理解しておくことが記憶の定着に貢献するはずだ。

3) 整序英作文 —— 文法と語彙対策で十分完答できる！

問題Ⅳは整序英作文の出題である。整序英作文では全般的な知識が複合的に問われることから、苦手とする受験生も少なくない。ただし、問題Ⅳの整序英作文では対応する和文が与えられており、非常にシンプルな出題であることから、上述の文法・語法・語彙・熟語・構文の知識をきっちりと整理・理解しておけば、十分に完答が可能なはずだ。

解法と関わることであるが、文 (sentence) を形作る要素として、品詞についての理解が不足していないか、確認しておきたい。選択肢として与えられた単語の品詞がわかれば、文の中でのそのはたらき (どの位置で互いにどんな結びつきをするか) は自ずと絞り込まれる。品詞の理解があることで正解に至る道筋が見えてくるので、まずは品詞のはたらきを整理しておきたい。そのうえで、英文の骨格にあたる主語と述語動詞をあらかじめ確定させることにより、素早く解答することができるはずだ。

4) 読解 —— 論理展開を素早くとらえよう！

長文問題のうち、問題ⅠとⅡでは、知識分野の出題はほとんどなく、本文の正確な内容把握を確認する出題に限られている。したがって、正答を導くには、段落ごとの要旨をつかんだうえで、本文の論理展開を大局的にとらえ、設問が本文のどの部分にあたるかを特定しなければならない。つまり、「全体の論理展開を正確に把握する力」が問われている。筆者の主張はどこか、主張を裏づける根拠はどこか、具体例はどこか、一般論はどこか、といった本文中での論理展開を意識した読解の仕方を常日頃から訓練しておくことで、設問内容の該当箇所が見つけやすくなるだろう。また、時事的な出典では、最新の研究や事例を引用することで筆者の主張が展開されやすいことから、筆者の問題意識と主張、その主張を支持する内容などを本文中で区別しながら読み進めるように意識することで、読解が容易になる。具体的な研究・調査を紹介している部分を特定し、そこから得られる結論部分がどこにあたるかを見極める練習を繰り返すとよい。また、パラグラフ (段落) の構成・展開について意識しながら読み進めるようにすれば、ただ英文を日本語に置き換えて意味をとろうとする読み方

の弊害に陥らずに、上記のような読み方をすることが可能になるだろう。平素の学習時に各パラグラフの要旨と互いの関係性を意識することが重要であり、具体的な学習法としては、パラグラフごとに「問題提起」「主張」「論拠」「具体例」「研究事例」といった内容をメモしていくことが有効であろう。

出典テーマは、時事的なものが中心であり、上記の出典テーマを確認したうえで、同ジャンルの文章を読む経験を積んでおきたい。＜出題傾向＞でも述べたとおり、「情報通信技術」「資源・環境問題」「最新科学研究紹介」「生き方をめぐる教訓」「コミュニケーション」といった出典テーマには常日頃から積極的に触れるようにしたい。たとえば、「SDGs」という名称で括られる問題群は、近年ひととき出題率が高い。時事的出典を好むのは、受験生に社会的関心を持ってほしいという出題者からのメッセージと解することができる。そのため、環境問題はもちろんのこと、広い意味での格差問題（貧困問題、ジェンダー）など、SDGsにどのような問題群があるのかを学びながら、出典の背景について見識を深めておくことは有用であろう。また、最新技術、とりわけ ICT（情報通信技術）によって生じる問題点、もしくは ICT による既存の問題の解決方法なども扱われることが多いので、近年の技術的問題にどのようなものがあるかを知っておくことも、対策として有効である。

以上